第８回原子力の業務運営に
係る点検・助言委員会資料

資料２－２

原子力コミュニケーション分科会の進め方

平成27年10月2日

九州電力株式会社

原子力コミュニケーション分科会の進め方

原子力コミュニケーション分科会では、自主的・継続的な安全性向上への取組みの実効性を更に高めるため、今後、以下の点検項目に重点を置き、委員の皆さまにご助言いただきたいと考えます。

[重点項目]

- 原子力に関するコミュニケーションのあり方
  1. リスクコミュニケーションの強化
  2. 新たな視点によるコミュニケーション活動の展開

[考え方]

原子力に関するコミュニケーションについて、当社は、リスクコミュニケーションの考え方を取り入れた、フェイス･トゥ･フェイスによる双方向のコミュニケーションを中心に展開していますが、お聴きした声を具体策に結び付け地域の皆さまへフィードバックするサイクルを確立していくことが課題と考えています。

また、お客さまからは、「当社が原子力にこだわっている印象を持っている」とのご意見をいただいており、これを払拭するための取組みの展開も重要だと考えます。

以上の課題認識を基に設定した重点項目に対し、分科会委員の皆さまに専門的見地からご助言いただくことで、原子力コミュニケーションの充実、強化を図っていきたいと考えます。

原子力に関するコミュニケーションのあり方

1　リスクコミュニケーションの強化

o　地域の皆さまの不安や疑問の声にお答えするために、社内イントラネットを活用して、各部署での取組事例や対話用に作成した資料を共有し、全社における双方向のコミュニケーションの充実を図ります。

〔過去の取組みの例〕
- 放射線への不安にお応えする講演会開催(H26.6)
- PAZ圏内の要援護者避難のための福祉車両及び放射線防護対策施設への備蓄品配備(H27.3)

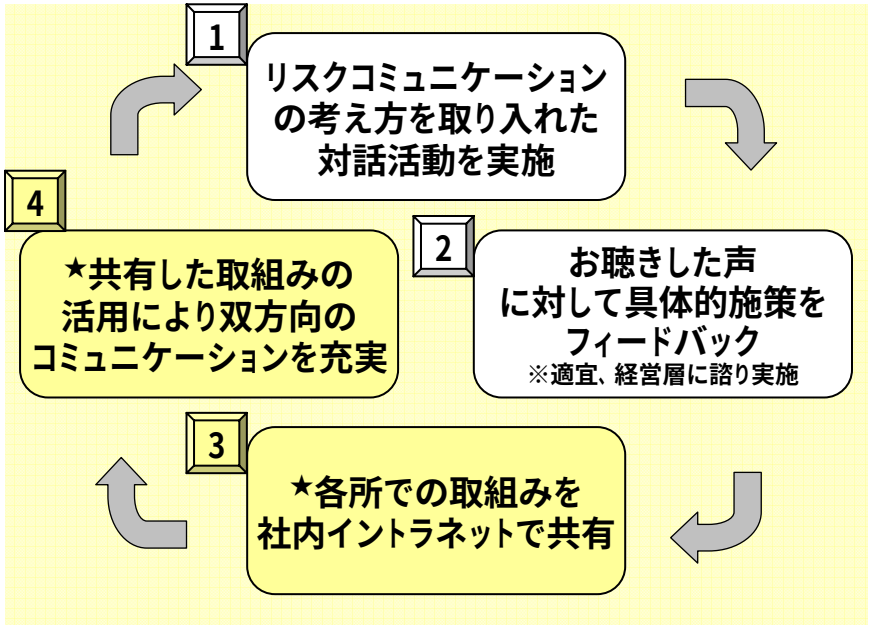
〔作成した資料の例〕
「放射線のものさし」（H26.5）
「福島原子力発電所の事故を踏まえた幾重もの対策」(H27.5)
「原子力に関する疑問にお答えします（玄海1号廃炉に伴う放射性廃棄物の処分方法や費用等について）」(H27.6)

o　社員へのリスクコミュニケーションの考え方の定着とスキル向上のため、意識啓発や研修等の取組みを継続的に実施します。

※単に不安の声をお聴きするコミュニケーションではなく、地域の皆さまの本音を目と耳で聴く（感じ取る）意識を涵養

- 専門家による講演会、専門家との意見交換会の開催
- コミュニケーションに関する各種研修の充実、受講対象範囲の拡充
- メールマガジンの継続配信及び内容充実
  （例）研修や講演会での意見、質疑内容

リスクコミュニケーションの実効性･継続性を向上させる取組み



★社員一人ひとりのリスクコミュニケーション意識･スキル向上に向けた取組みを継続

★…今後強化する取組み

これらの取組みを自主的･継続的に実施し、地域の皆さまとの信頼関係の構築に努めます。

原子力に関するコミュニケーションのあり方

2　新たな視点によるコミュニケーション活動の展開

o　お客さまへのアンケート調査等の結果から、再生可能エネルギーの開発を通じた地域との共生の取組みなど前向きな情報発信により、当社に対する信頼を底上げし、その結果として原子力への理解促進や容認に繋げる取組みを展開していきます。

〔背　景〕
・　お客さまアンケート調査において、原子力の稼働を容認する方々の多くが「再生可能エネルギーなどの代替エネルギー開発を進めて、徐々に縮小するべき」との意識を持ち、アンケート調査の深掘りとして実施したグループインタビューでは「九州電力に関する情報はマスメディアからの原子力に関する情報が中心となっており、原子力にこだわっている印象がある」との意見をいただきました。

o　原子力に関する当社の取組みを報道機関はもとより有識者も含めてお伝えすることにより、第3者を介した客観的な情報発信に繋がる取組みにも努めていきます。

〔背　景〕
・　調査では「国や電力会社から発信する原子力情報への信頼性が低い」との結果が出ていることなどから、地域の皆さまへの理解を促進するためには、第3者からの発信が必要と考えます。